

第3回目・オランダ農業協力対話第1回分科会の概要

(テーマ: 畜産バイオマス)

1 日時等

日時：令和元年12月3日(火)9時30分～12時40分

場所：農林水産省

2 出席者

オランダ側：農業・自然・食品品質省、HoSt社、DSM株式会社

日本側：農林水産省

ほか農研機構、農林水産政策研究所、関係企業、関係他部局からのオブザーバー

(主な出席者リストは、別紙のとおり。)

3 情報・意見交換

(1) 日本側発表

①家畜排せつ物の処理及び堆肥等での利用について：農林水産省生産局

○日本では家畜排せつ物に関する政策として、「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」を制定しており、家畜排せつ物の適正な管理と利用の促進について定めている。

○今後の課題として、堆肥の利用促進に向けた広域流通があげられ、広域流通に資する取組として堆肥のペレット化を行うための予算を来年度に向けて要求している。

②家畜排せつ物におけるバイオガス利用の促進：農林水産省食料産業局

○政府のエネルギー政策では今後、再生可能エネルギーの割合を増やす方向であり、このうちバイオマス発電についても導入量を増やす方向。国内では特に北海道で家畜バイオマス由来のバイオガス発電の割合が増えている。

○日本国内の優良事例について紹介。

○今後の課題として、北海道胆振東部地震での停電の事例を紹介し、災害時にも地域にエネルギーが供給できるシステムの構築、バイオガス発電のコスト低減、送電網の空容量不足を踏まえた対応等が必要。

○さらに、FIT制度が今後見直される予定であり、その際は地域貢献等が重要となる見込み。

(2) オランダ側発表

①持続可能なふん尿管理：循環型農業のための政策と施策：オランダ農業・自然・食品品質省

○オランダは日本に比して面積や人口は小さいが家畜の頭数は多く、畜産業由来の排泄物量について国民はときに批判的である。排せつ物の生産量には事実上の上限があり、産業の規模を制限している。様々な技術的処理手段が検討されており、家畜排せつ物は、資源循環型農業の一環(肥料、炭素量)とみなされている。

○オランダでは、排せつ物由来の窒素やリンの農業への使用量について、作物や土壌条件ごとに細分化して規定する規制がある。

②消化液の付加価値化と循環経済のためのメタン化：HoSt 社

○オランダにおける主要な家畜排せつ物の処理方法と各方法の特徴について説明した後、同社が取り組んでいる畜産バイオマスのバイオガス化について紹介。

○オランダでは、バイオガスの利用に関してはバイオガス発電でなく精製ガスとしての利用も進んでいる。

③持続可能な畜産のための効率良い飼料原料の活用：DSM 株式会社

○家畜排せつ物による畜産環境問題への取り組み方の一つとして、家畜排せつ物の量自体を減らすという考え方があり、そのための飼料添加物の使用について提案する。

○飼料添加物は、従来の飼料では家畜が吸収できない窒素やリンの吸収を促進しやすくすることにより、それらの排せつ量を抑える。また、家畜排せつ物の量を削減するだけでなく、少ない飼料で家畜を成長させることができ、また、床湿りが減るので動物福祉に寄与するという効果も期待できる。

4 締め括り(まとめ)

(日本側)家畜排せつ物はしっかり処理すれば有用な資源になることは確かであり、このために両国間の産学官を巻き込んだ協力が必要であると考え。畜産バイオマスに係る両国共通の現状と課題として、畜産バイオマスの管理や利用にはコスト面での課題があることが判明。また一方で、地理的環境や電力系統等には各国の違いがありそれぞれの環境に応じた対応が必要。両国の専門家間の今後の協力を期待したい。

(オランダ側)オランダは、家畜排せつ物が農業への重要な投入物ではなく、取り除く必要のある廃棄物とみなされることがあると強調。オランダは、畜産バイオマスについての政策立案、立法および処理において長年の知見を有し、日本が抱える課題に協力できる部分もあると思料。両国間にはワーヘニンゲン大学と農研機構の協力関係もあるため、そのようなチャンネルも使ってこの分野に係る協力を継続できることを期待。家畜排せつ物が農家の収入源になることが目標。

(分科会の様子)



発表するフォッセナー氏



質疑応答



関係企業や研究者等の聴講も数多くあった



出席者集合写真

第3回日・オランダ農業協力対話第1回分科会 主な出席者リスト(敬称略)

(オランダ側)

- ・ 農業・自然・食品品質省特使 フレデリック・フォッセナー氏
- ・ HoST 社日本地区代理人 ジェローム・パルトス氏
- ・ DSM 株式会社取締役・アニマルニュートリション本部長 小本勝利氏
- ・ 在京蘭大 エバートヤン・クライエンブリンク農務参事官
- ・ 在京蘭大 齊藤裕子農務アドバイザー

(日本側)

大臣官房国際部国際地域課 平中課長、堀上席国際交渉官、東川補佐、山田係員
食料産業局バイオマス循環資源課 金永課長補佐
生産局畜産振興課 川島課長補佐